

IBM SPSS Amos 許可ユーザー・ライセンス
管理者ガイド



目次

第 1 章管理者ガイド	1
開始する前に.....	1
ゴースト表示.....	1
Citrix およびターミナル・サービス.....	1
ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール.....	1
Windows コンピューターへのインストールのプッシュ.....	2
licenseactivator の使用.....	5
ライセンス・ファイル.....	6
サービスとサポート.....	6

第 1 章 管理者ガイド

以下の説明は、許可ユーザー・ライセンス IBM®SPSS® Amos のライセンス・タイプ 29 を使用しているサイトの管理者向けです。このライセンスを使用すると、ライセンスを購入した数に限り IBMSPSS Amos を複数のコンピューターにインストールすることができます。

開始する前に

認証コードが必要です。認証コードにより、管理者とエンド・ユーザーは、のライセンスを取得できるようになります。

認証コードの取得方法に関する別個の指示を受け取っていると思います。認証コードが見つからない場合は、にアクセスして、カスタマー・サービスに連絡してください。

ゴースト表示

ソフトウェアのゴースト化を行う場合は、ライセンスへの準拠を容易にするために次の方法をお勧めします。

- コンカレント・ライセンスに移行する。
 - または-
- 認証済みユーザー・ライセンスを使用するが、ゴースト化イメージのソフトウェアにはライセンスを許可しない。各エンド・ユーザー・マシン上のソフトウェアにライセンスを許可します。

ソフトウェアのゴースト化を選択した場合、上記 2 つの推奨方法のいずれかを使用しないときは、ライセンスへの準拠を維持していくことが非常に難しくなります。ライセンスへの準拠の維持についてのご質問は、IBM 会社にお問い合わせください。

Citrix およびターミナル・サービス

You need a concurrent license to use on Citrix and Terminal Services. ライセンスの移行については IBM 会社にお問い合わせください。

ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール

エンド・ユーザーのコンピューターにローカルで製品のフルインストールを行うには、2 つの方法があります。各コンピューターに手動でインストールすることも、システム管理サーバー (SMS) などのアプリケーションを使用して、Windows を実行しているコンピューターにインストールをプッシュすることもできます。

ローカル・デスクトップでの手動インストール

1. **インストール・メディアを用意します。** 製品の eImage をダウンロードし、共有ネットワーク・ドライブにファイルを解凍します。物理インストール・メディアがある場合、ドブド/シーディーのコピーを必要な数だけ作成するか、メディアを共有ネットワーク・ドライブに置きます。
2. **インストール手順書をコピーし、ライセンスに関する情報を準備します。** 製品のインストール手順書のコピーを必要な数だけ作成します。インストールの手順は、ダウンロード・サイトまたは、物理インストール・メディアを入手した場合は、ドブド/シーディーのディレクトリーから入手できます。ライセンスの種類に対応する指示に従います。インストール後に、エンド・ユーザーは、サイトの認証コードを入力する必要があります。手順書をコピーする前に、手順書の冒頭に用意されているスペースにこの情報を入力します。

注: プロキシ・サーバーによって認証が妨げられる場合は、*licenseactivator* の使用を検討してください。これによって、プロキシ ID とパスワードを入力できます。詳しくは、[5 ページの『licenseactivator の使用』](#)のトピックを参照してください。

3. インストールに必要なものをエンド・ユーザーに配布します。ダウンロード済みファイル(またはネットワーク上の場所、またはインストールドブド/シーディー)、インストール手順書、およびライセンス情報を、各コンピューターに手動でインストールできるエンド・ユーザーに必要なに応じて配布します。

Windows が稼働しているローカル・デスクトップへのプッシュ

IBMSPSS Amos のインストールは Microsoft Windows インストーラー (MSI) との互換性があるため、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターにインストールをプッシュできます。

Windows コンピューターへのインストールのプッシュ

インストールのプッシュとは、ソフトウェアを任意の人数のエンド・ユーザーに、ユーザーの介入なしにリモートで配布する手法です。の完全インストールをエンド・ユーザーの Windows が稼働するデスクトップ・コンピューターにプッシュできます。インストールのプッシュに使用するテクノロジーでは、MSI エンジン 3.0 以上がサポートされている必要があります。

前のバージョンの上書き

前のバージョンの がインストールされているのと同じディレクトリーにプッシュする場合、インストーラーは既存のインストール環境を上書きします。オプションで、インストールのプッシュ時にアンインストールをプッシュできます。詳しくは、4 ページの『[アンインストールのプッシュ](#)』のトピックを参照してください。

プッシュ・インストールのプロパティー

プッシュ・インストールに使用できるプロパティーには、以下のものがあります。すべてのプロパティーは大文字小文字を区別します。値に空白文字が含まれている場合は、その値を引用符で囲む必要があります。

プロパティー	説明	有効な値	デフォルト (該当する場合のみ)
INSTALLDIR	IBMSPSS Amos のインストール先となる、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューター上のディレクトリー。このプロパティーはオプションです。このプロパティーを指定しなかった場合のデフォルトは C:\Program Files\IBM\SPSS\AMOS\29 です。	C:\Amos などの有効なパス。	C:\Program Files\IBM\SPSS\AMOS\29
AUTHCODE	認証コード。このプロパティーを指定した場合、認証コードを使用して製品が自動的に認証されます。このプロパティーを指定しなかった場合、各エンド・ユーザーがライセンス認証ウィザードを実行して、手動で認証を行う必要があります。	1つ以上の有効な認証コード。複数の認証コードを指定する場合は、コロンで区切ります (例: <code>authcode1:authcode2</code>)。	

表 1. プッシュ・インストールのプロパティ (続き)

プロパティ	説明	有効な値	デフォルト (該当する場合のみ)
PROXY_USERID	プロキシのユーザー ID。AUTHCODE パラメーターを指定し、インターネットへの接続でユーザー ID とパスワードが必要なプロキシを現在のサイトで使用している場合は、このパラメーターを指定する必要があります。コントロール・パネルの「インターネットオプション」の「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」で、特定のプロキシ・サーバーのアドレスとポートが指定されている場合のみ、このパラメーターが機能します。	有効なプロキシ・ユーザー ID。	
PROXY_PASSWORD	プロキシ・ユーザーのパスワード。詳細については、PROXY_USERID の説明を参照してください。	プロキシ・ユーザー ID に関連付けられたパスワード。	
ENABLE_CONNECTIONS	インターネット接続機能 (情報の共有、エラー・レポート、およびウェルカム画面の更新) を有効または無効にします。	YES または NO	

MSI ファイル

IBM SPSS Statistics.msi ファイルは、ダウンロードした eImage を解凍したコンテンツの Windows\SPSSStatistics\ ディレクトリーにあります。

コマンド・ラインの例

製品のインストールのプッシュに使用できるコマンド・ラインの例を以下に示します。すべてのテキストを 1 行で入力してください。

```
MsiExec.exe /i "IBM SPSS Statistics.msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" AUTHCODE="3241a2314b23c4d5f6ea"
```

SMS を使用したインストールのプッシュ

システム管理サーバー (SMS) を使用してをプッシュする基本ステップは、以下のとおりです。

1. 本ソフトウェアをダウンロードしたら、まず eImage の内容を解凍してから、Windows\Amos ディレクトリーの下の該当するサブディレクトリーを、ネットワーク・コンピューター上のディレクトリーにコピーする必要があります。
2. コピーされたディレクトリー内の .sms ファイルを編集します。テキスト・エディターを使用して適切なプロパティを追加することにより、**CommandLine** の値を変更してください。使用可能なプロパティ

ィーのリストについては、2 ページの『[プッシュ・インストールのプロパティ](#)』を参照してください。コマンド・ラインで適切な MSI ファイルを指定してください。

3. .sms ファイルからパッケージを作成し、そのパッケージをエンド・ユーザーのデスクトップ・マシンに配信します。

グループ・ポリシーまたは関連技術を使用したインストールのプッシュ

1. ソフトウェアをダウンロードしたら、まず eImage のコンテンツを解凍し、Windows\Amos ディレクトリーの下位にある該当するサブディレクトリーを、ネットワーク・コンピューター上のディレクトリーにコピーします。
2. ORCA などのアプリケーションを使用して、コピーしたフォルダー配下の適切な IBM スポス アモス 29 .msi ファイルでプロパティ・テーブルを編集します。ORCA は、Windows 2003 Server SDK に付属しています。<http://www.microsoft.com/downloads> にアクセスして、「SDK」で検索してください。プロパティ・テーブルに追加できるプロパティのリストについては、2 ページの『[プッシュ・インストールのプロパティ](#)』を参照してください。必ず、正しい MSI ファイルを使用してください。
3. 編集済みの IBM スポス アモス 29 .msi ファイルを使用してパッケージを作成し、このパッケージをエンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターに配布します。

英語以外のシステムにインストールをプッシュする

追加の指定をすることなく、英語以外のシステムにインストールをプッシュすることができます。ただし、インストーラーの言語 (対話インストールをプッシュする場合)、ユーザー・インターフェース、ヘルプはすべて英語で表示されます。ユーザーは、インストール後にユーザー・インターフェースの言語を変更できますが、ローカライズされたヘルプは使用できません。

TRANSFORMS プロパティを使用して、ドブド/シーディーまたはダウンロードした eImage に含まれているいずれかの MST ファイルを指定することができます。MST ファイルを使用すると、インストーラー、ユーザー・インターフェース、ヘルプを、指定の言語で表示することができます。IBMSPSS Amos をダウンロードした場合、MST ファイルは使用できません。その場合ユーザーは、ローカライズされたヘルプの言語パックを手動でインストールし、製品のユーザー・インターフェース言語を手動で変更する必要があります。

TRANSFORMS プロパティは MsiExec.exe のパラメーターです。以下の例では、TRANSFORMS プロパティを使用して、フランス語のインストールをプッシュしています。この場合、インストーラーとユーザー・インターフェースがフランス語で表示され、フランス語のヘルプがインストールされます (ヘルプの言語を HELPCHOICE プロパティでオーバーライドすることもできます。詳しくは、2 ページの『[プッシュ・インストールのプロパティ](#)』のトピックを参照してください。) すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /i "IBM スポス アモス 29 .msi" /qn /L*v logfile.txt  
INSTALLDIR="C:\Amos" LSHOST="mylicserver" TRANSFORMS=1036.mst
```

以下の言語 MST ファイルは、の Windows\Amos ドブド/シーディー ディレクトリーに格納されています。eImage をダウンロードした場合、これらのファイルは抽出された eImage ファイルのルート・ディレクトリーに格納されています。

言語	MST ファイル
英語	1033.mst
日本語	1041.mst

アンインストールのプッシュ

注: アンインストール・コマンドをプッシュすると、エンド・ユーザーによるカスタマイズが失われます。特定のユーザーについてカスタマイズが必要な場合は、それらのユーザーを配布対象から除外して、製品を手動でインストールするように依頼してください。

新しいバージョンの IBMSPSS Amos のインストールをプッシュする場合、最初にアンインストールを行うことをお勧めします。これは、解凍した extracted ファイルに含まれている push_uninstall.bat ファイルを使用してサイレントに実行できます。

次の表に、これまでのリリースのアンインストール ID をリストします。

表 3. IBMSPSS Amos のアンインストール ID	
バージョン	アンインストール ID
28.*	{5643F9D3-6B6B-439A-A8D1-66C0D363B553}
27.*	{5714B6D0-2C14-49BB-B560-25CB36AE2AF3}
26.*	{C31442F6-4B76-4022-9822-7F60F3EA70D8}
25.*	{28C51A52-9B61-4589-91DE-8C5FAEA00B10}
24.*	{A24026D3-0E0B-49F1-8FC8-65E254EB421F}
23.*	{2B603859-DCA2-45DD-92DF-98542E78BAA8}
22.*	{DEB57287-C937-4DE9-939A-5ED3AB8F052D}
21.*	{304B71E3-1017-4717-86BC-F1D18519FEF2}
20.*	{58C50F5A-B7E2-4149-8911-B14CEC825F57}
19.*	{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5}
18.*	{65D9DA69-4C22-46CA-B762-A338CAC94599}
17.*	{9DB2E18E-2A1F-4D65-A258-9CB446903C3E}
16.*	{4DA782CB-C9A0-462F-9D18-17D301BC507C}

licenseactivator の使用

licenseactivator を使用すると、ライセンス認証ウィザードを使用しなくても、エンド・ユーザーのコンピューターを認証することができます。このコマンド・ライン・ツールは、IBMSPSS Amos をインストールしたディレクトリーにあります。

licenseactivator を使用すると、商品のライセンスが交付され、licenseactivator のディレクトリーにログ・ファイルが書き込まれます。このログ・ファイルの名前は、*licenseactivator_<month>_<day>_<year>.log* になります。エラーが発生した場合は、ログ・ファイルで詳細を確認できます。IBM 会社にサポートを依頼する場合にも、この情報が役に立ちます。

認証コードでの licenseactivator の使用

licenseactivator は、通常、製品の購入時に受け取った 1 つ以上の認証コードとともに使用します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
licenseactivator authcode1[:authcode2:...:authcodeN] [PROXYHOST=proxy-hostname] [PROXYPORT=proxy-port-number]
[PROXYUSER=proxy-userid] [PROXYPASS=proxy-password]
```

注: macOS で作業するときは、./licenseactivator を使用します。

- 複数の認証コードを指定する場合は、コロン (:) で区切ります。
- プロキシ設定は任意ですが、プロキシ経由でコンピューターを使用している場合は、プロキシ設定が必要になることがあります。必要なプロキシ設定は、固有のプロキシ構成によって異なります。すべてのプロキシ設定が必要になることがあります。

PROXYHOST

プロキシ・ホストのサーバー名または IP アドレス

PROXYPORT

プロキシ経由でインターネットに接続するためのポート番号

PROXYUSER

プロキシのユーザー ID (必要な場合)

PROXYPASS

ユーザー ID に関連付けられたパスワード (必要な場合)

ライセンス・コードでの licenseactivator の使用

In less common scenarios, IBM 会社 may have sent you a *license*.

```
licenseactivator licensecode[:licensecode2:...:licensecodeN]
```

注: macOS で作業するときは、`./licenseactivator` を使用します。

- ライセンス・コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- ライセンス・コードを使用する場合、`licenseactivator` はインターネットには接続しないため、プロキシ情報を指定する必要はありません。

macOS 固有の licenseactivator 機能

macOS システムでの `licenseactivator` の実行に固有の機能と設定は次のとおりです。

ネットワーク・ライセンスの設定

ネットワーク・ライセンスの設定を次の例に示します。

```
./licenseactivator LSHOST= COMMUTE_MAX_LIFE=7
```

activation.properties ファイル経由でのライセンス交付

`activation.properties` ファイルを使用した製品へのライセンス交付を次の例に示します。

```
./licenseactivator -f activation.properties
```

`activation.properties` ファイルのテンプレートは、`<installation directory>/Resources/Activation` に用意されています。

注: 端末ウィンドウに `./licenseactivator --help` と入力して、`licenseactivator` オプションの全リストを表示します。

ライセンス・ファイル

製品にライセンスを許可すると、製品のインストール・ディレクトリーに `lserverc` という名前のファイルが作成されます。このファイルのコピーをエンド・ユーザーの各コンピューターに対して保持しておくことができます。ライセンス・ファイルは、それが作成されたコンピューターでのみ機能しますが、そのコピーがあると、製品のアンインストールや再インストールが必要になったときに役立ちます。再インストール後に、`lserverc` ファイルを製品のインストール・ディレクトリーにコピーし直すことができます。これにより、製品のライセンスをあらためて取得する作業が省けます。

サービスとサポート

Micro Software のライセンス契約書に記載されているように、サイトでライセンス交付を受けた製品バージョンごとに、窓口となる技術担当者が、お客様のサイトで 1 人指定されます。この担当者が、お客様の組織内のユーザーに対して、製品およびオプションのサポートを提供することになります。IBM 会社は技術担当者の名前を記録し、IBM 会社 テクニカル・サポートを通じて技術サポートを提供します。ソフトウェアに関する質問は指定された技術担当者に問い合わせるよう、エンド・ユーザーに通知してください。

IBM 会社 技術サポートに連絡するには、<http://www.ibm.com/support> にアクセスして事象を送信してください。IBM 会社 技術サポートに登録していない場合は、登録する必要があります。

IBM 会社は、IBM 会社 製品の公開トレーニング・セミナーを定期的に開催しています。オンサイトでトレーニングを受講することもできます。トレーニング・セミナーの詳細については、<http://www.ibm.com/training/spss> にアクセスしてください。

